

独眼竜政宗の素顔



著者 逸見英夫
 著者 伊達英宗

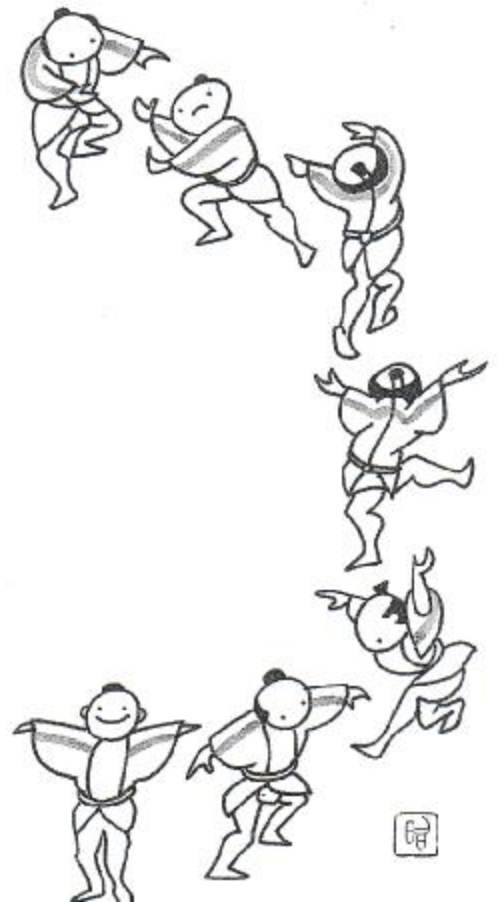
独眼竜政宗の素顔

逸見英夫・伊達英宗 著

宝文堂

宝文堂 定価 1,300 円 (本体 1,262 円)
 ISBN4-8323-0081-4 C0021 P1300E
 宝文堂 60周年記念企画

スズメ踊りと大黒舞



広瀬川に慶長六年(二六〇二)十二月に架橋された「仙台大橋」を渡って、新築の仙台北城に伊達政宗公が入ったのは、慶長八年(二六〇三)の八月のことでした。二年半ぶりの帰仙でした。

屈曲した坂道・四町五十間(五二七メートル)を登ると左右に三重櫓が設けられてあり、本丸の大手門(詰の門)がありました。重層の門をくぐり山頂に到ると、東西百二十間(約二百十六メートル)、南北百七十間(約三百六メートル)の、現在天主台とよぶ平坦な地域となります。その東北の隅(鬼門)に良櫓、東南隅に翼櫓、いずれも三重の櫓。西方の酉の間には二重の櫓が建てられてありました。桃山式書院造りの本丸は慶長十五年(二六一〇)に落成しますから、まだ建築中でした。五層の天主閣はまだ模型でした。

眼下をみおろすと、かつては宮城郡荒巻村・小田原村・南目村・小泉村、名取郡根岸村の五ヶ村の入会地で、森林と湿地、深田の連なる宮城野の荒野も、城下町に姿を変えていました。北は紫(村の先)神社(戦災前の仙台市役所北門の所に在った)、のちに「なに」一字 ちがいがりとして ことごとし きみは政宗 われは政一」を詠んだ花村勾当の屋敷のあった勾当台、城の北東にあたる鬼門封じの眞言密教の祈願所・定禅寺。東端は京都聖護院末本

山派修験の花京院、そこから清水小路を経て眞福寺に至る南北線が城下町の東端でした。現在の北目町と荒町の間には長さ二間(三・六メートル)幅二間の「清水の板橋」で城下町と外を結んでいました。この城下町の中に、家臣八千戸、町方二千戸、寺方二百五十戸、その他合わせて戸数一万八百五十戸、五万二千人が住んでいました。侍屋敷は、丁とよぶ道路沿いに、足軽・職人・町人屋敷は町とよばれた区画に整然と並んでいました。

政宗公が生まれた米澤(山形県)の城は先祖が築いた城、天正十九年(一五九二)に秀吉の命令で移った岩出山城は徳川家康が築いた城。仙台城は三十七歳になった政宗公が初めて、自ら縄張りして築いた城でした。

公は早速家臣たちを集めて移徙の式、すなわち新築移転の儀式を行いました。祝宴のさなか城壁を築いた泉州堺の在から来た石工たちが、即興にスズメ踊りを踊りました。つぎつぎに面白い踊が続きました。奥に乗った政宗公も大黒舞を踊りだしました。

踊りをみていた公の財政責任者である鈴木元信がさめざめと泣きだしました。政宗公「めでたい日なのに、どうした」と元信を叱りつけました。元信は「殿に期待し、天下を握るまでの財政を立て、金山を開発し、金穀の貯蓄もなし、殿に金銭で心配かけぬよう努めてきました。それなのに、こんな城一つで大黒舞を踊るとは、情けなくて」といいました。

片倉小十郎景綱と「お城ができたとして殿一人の力ではない。景綱はじめ家臣一同が身命を的に、これまで粉骨砕身働いてできた城です」というと、刀を抜いて床柱に切りつけました。

明治六年仙台城が陸軍により解体されたとき、床柱に刃の跡がすっかり残っていたそうです。

●逸見英夫へんみひでお

昭和5年4月生まれ。
現在瑞鳳殿竊託、仙台郷土研究会副会長、サン・ファン・パウティスタ号友の会副会長、河北・TBCカルチャー・みやぎ社会保険センター(宮城の郷土史)講師。著書に「カナダに賭けた青春」(宝文堂)、「仙台はじめて物語」(創童社)、監修に「宮城の昭和史」(毎日新聞社)、共著に「宮城県風土記」(旺文社)、「伊達政宗と杜の都」(読売新聞社)、「独眼竜政宗」(日本放送協会)、「政宗博物誌」(瑞鳳殿)、「郷土史事典・宮城県」(明治・大正・昭和の郷土史・宮城県)(共に昌平社)、「明治・大正図誌6 東北」(筑摩書房)、「全日本リッチ感覚辞典」(新潮社)、「秘録・藩史物語」(秋田書店)がある。「仙台空襲」「仙台あのこところ八十八年」「仙台はフェニックス」(いずれも宝文堂)などの編さんにも従事。NHK仙台の「政宗探訪」に31回出演し、昭和61年度「NHK東北ふるさと賞」受賞。

●伊達泰宗だてやすむね

昭和34年2月生まれ。仙台伊達家十八代当主
現在瑞鳳殿資料館長、仙台市博物館竊託、瑞巖寺博物館連絡協議会委員、東北放送番組審議委員、仙台商工会議所顧問、淡交会宮城支部特別顧問 他
論文に「伊達家墳墓における出土遺物の保存対策」(第2回国際文化財生物劣化会議)、「米國博物館・美術館における展示方法と保存対策について」(日本博物館協会)、「仙台伊達家三藩主のDNA鑑定による科学的家系図作成の試み」(日本博物館協会)、「旧瑞鳳殿における伝統的保存対策の検討」(瑞鳳殿漆塗装建築物の劣化要因調査委員会)、共著に「みちのくのみ・幻の砂金の歴史と科学」(アグネ技術センター)、「政宗博物誌」(財団法人瑞鳳殿) 監修に「独眼竜政宗」(日本放送協会) などがある。

独眼竜政宗の素顔

1996年(平成8年)7月29日印刷

1996年(平成8年)8月8日初版

著者 逸見英夫・伊達泰宗 ©1996

発行者 鈴木久光

発行所 株式会社 宝文堂

〒980 仙台市青葉区中央二丁目4番6号

TEL 022-222-4181

印刷所 株式会社 東北プリント

ISBN4-8323-0081-4 C0021

(定価はカバーに表示してあります)